

# センチクバエとニクバエ幼虫によるハエ症の1例

吉井 学<sup>1</sup>・尾崎 稔<sup>2</sup>・尾崎 由美<sup>1</sup>  
鶴 信彦<sup>2</sup>・小田 力<sup>1</sup>・加藤 克知<sup>3</sup>

長崎大学医学部保健学科紀要 17(2): 65-67, 2004

**Key Words** : センチクバエ, ハエ症

## はじめに

ハエの幼虫が偶発的にヒトの内部または外部寄生虫として病害を起こす。ハエ幼虫の寄生部位は消化管が最も多く、食物にハエが産卵して知らないで食べて腹痛などの症状を起こす場合がある。また、損傷面などにハエが卵あるいは幼虫を産みつける。原因となるハエの種類は多種に及ぶ。寄生した後、細菌あるいは真菌感染による膿皮症に合併する場合も報告されている。この他ハエ幼虫が肺に寄生した症例があるが、特記すべき症状はなかった(加納他, 1997; Komori et al., 1978)。我々は、肺癌の治療中にハエ幼虫が寄生した例を経験したので報告する。

## 症 例

患 者：男性76才 元大工(建設業)

既往歴：平成6年に前立腺癌手術、平成14年に肺癌を手術した。

現病歴：平成16年7月25日、呼吸状態が悪化しK町立病院に入院、心肺停止したが救命処置により約15分後に蘇生した。以後、人工呼吸器により呼吸管理を継続した。心肺停止後、意識はなかった。平成16年7月29日に看護師が顔面清拭している際に両眼球に1～2mmの幼虫数個体を発見した。さらに、同年7月30日口腔内を洗浄している時、歯ぐきに4～5mmの幼虫を、また頭髮の根部に1～2mmの幼虫1個体を発見した。これらの幼虫はピンセットで除去し、70%エチルアルコールに入れて保存した。なお、本患者は、平成16年8月1日に永眠されたが、このハエの寄生は死因と無関係であり、単なる偶発寄生である。これらの幼虫は東京医科歯科大学医学部医動物学教室の篠永哲博士により、4～5mmセンチクバエの3齢幼虫、1～2mmのものはニクバエの2齢幼虫と同定された(図1)。

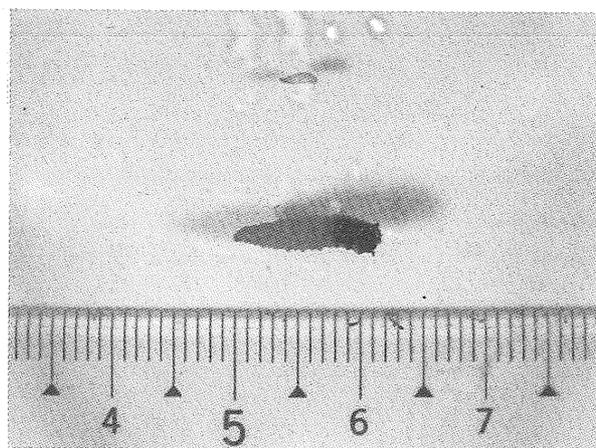


図1. センチクバエの3齢幼虫(下)とニクバエ類の2齢幼虫

## 考 察

センチクバエによるハエ症の報告は少ない。可見ら(1981)は61才の男性の耳下腺部の潰瘍のある部分にセンチクバエの高齢幼虫を認めた。この時の所見では、軽度貧血がみられたが、異常所見は認められなかった。加藤ら(1991)は59才の女性の直腸癌の肛門周囲皮膚で本種ハエの高齢幼虫を発見したが、特に異常所見は認められなかった。本報では口腔内にセンチクバエの高齢幼虫を認めた。この他、ニクバエの若齢幼虫を眼球と頭髮部で発見した。このように複数の部位で発見された例はほとんどなく、少なくとも長崎県では初例である。しかし、この原因はわからない。そこで、この点について発育期間をもとにして考察を加えた。センチクバエは他のハエと異なり卵を産まず、1齢幼虫を産むので突然ハエの幼虫を見つけて驚くことがある。発育期間は25℃で飼育すると、1および2齢が各々約24時間、3齢3～4日、蛹は約10日である(加納ら, 1999)。本症例では2日間にわたって幼虫が発見されているが、これは幼虫が1～2mmの若齢幼虫と4～5mmの高齢であった。このよう齢構成は2回以上にわたって幼虫が産みつけられる

1 九州医学技術専門学校  
2 国民健康保険 琴海町立病院  
3 長崎大学医学部保健学科

ことによるとも考えられるが、同じ時期に産みつけられたものの1部が栄養の摂りやすい口腔内に侵入した可能性もある。また、高齢幼虫が見つかったので、少なくとも感染して3～4日位経過したものと推定される。

#### 引用文献

- 1) 加納六郎編, 大滝倫子, 篠永哲, 内川公人, 大滝哲也: 節足動物と皮膚疾患. 東海大学出版会, 東京, 53-65, 1999.
- 2) 加藤直子, 小梁川義則, 高橋健一: センチクバエによるMyiasis 1例. 臨皮, 45: 43-45, 1991.
- 3) 可児淳朗, 中村治, 大野晴美, 長瀬啓三, 戸谷徹造, 森下哲夫: センチクバエによる外部蠅症について. 衛生動物, 32: 23-28, 1981.
- 4) Komori K, Hara, K, Smith KG, Oda T, Katamine D: A case of lung myiasis caused by larvae of *Megaselia spilacularis* Schmitz (Diptera: Phoridae). Trans Roy Soc Trop Med and Hyg, 72: 467-470, 1978.

A case of myiasis caused by the fly larvae of  
*Sarcophaga perigrina* and *Sarcophaga* sp.

Manabu YOSHII<sup>1</sup>, Minoru OZAKI<sup>2</sup>, Yumi OZAKI<sup>1</sup>, Nobuhiko TURU<sup>2</sup>,  
Tsutomu ODA<sup>1</sup>, Katutomo KATO<sup>3</sup>

1 Kyushu College of Medical Technology

2 Kinkai Municipal Hospital

3 Department of Physical Therapy, School of Health Sciences Nagasaki University

**Abstract** The worms were found in the eyes and inside mouth in the 76 year-old man with experience of operation of lung cancer.

They were the 3rd instar larvae of *Sarcophaga perigrina* and the 1st and 2nd instar larvae of *Sarcophaga* sp. This report is recorded as the first case of myiasis caused by *Sarcophaga perigrina* larvae and those of *Sarcophaga* sp.

Bull. Nagasaki Univ. Sch. Health Sci. 17(2): 65-67, 2004